

2023年も残すところ約3週間となりました。ここまでの歩みが守られたことに感謝です。今月は、いよいよキリスト教行事の中で最も大きな喜びの日である『クリスマス』を迎えます。全世界のキリスト教の暦では、クリスマスまでの“待つ期間”“心の準備の時”とする4週間『アドベントウィーク（待降節）』に入りました。これは、クリスマス直前の日曜日が起点となるので、毎年変動しますが、今年は12月3日～24日です。つのはえではコロナの期間、全体での礼拝が困難であったためクラス毎に日程をずらし、それぞれでお祝いをしていました。ですので、今年こそ子ども達・先生達全員でお祝いの礼拝ができると喜びつつ、2日(金)からアドベントに入る予定で楽しみに待ち望んでいました。ところが突然のインフルエンザ襲来。あっという間に広がってしまい「神様、これも御心なのですね…」と思わず天を仰ぎました。急遽先生達と話し合い、今後の感染状況を想定し、各クラスの現状把握を互に行った上で、何よりも皆の健康と安全を第一に考慮しようと、大幅なスケジュールの変更に踏み切りました。4週には足りませんが、5日(火)～22日(金)をつのはえのアドベント期間として過ごします。現時点でもまだ、特に幼児クラスの感染が収まっておらず、先週末からは担任が全滅となり、これまで経験したことのない緊急事態に、心配と不安でいっぱいでしたが、ようやく少しずつ緩和されてきているようですので、乳児クラスへもこれ以上影響がないよう今一度しっかり衛生管理や感染対策により一層留意をして参ります。皆様もくれぐれもお気を付けください。

例年皆様から大好評の、プレクリスマスのような『クリスマス保護者会』も楽しく準備を進めていましたので非常に残念でしたが、感染拡大予防により、取り止めに決定した次第です。直前の急な連絡となりましてご迷惑をおかけいたしましたこと、改めてお詫び申し上げます。

今年初めて、つのはえでのクリスマスを迎えられる皆様には“真実の”クリスマスの意味を知って頂けることを大変嬉しく感謝しております。おそらく、クリスマス＝サンタ・クロースというイメージがお馴染みかもしれません。でもつのはえではサンタさんの登場はありません。クリスマス(Christmas)の語源は『Christ(キリストを)+mas(ミサ=礼拝する)』です。本当のクリスマスとは、聖書に記されている『イエス・キリストが誕生された』その出来事に出会い受け入れ、神様に感謝の礼拝を献げた人々の姿であり、心そのもの…と言えるでしょう。神様のひとり子イエスさまが人の子どもとして誕生されたのは、寒い冬の真夜中のことでした。暖かな家の中には入れてもらえず、ベツレヘムの町はずれの小さな馬小屋でひっそりと生まれ、ベッドではなく、動物の餌を入れる飼料桶の中で、白い布にくるまれて静かに眠っていました。そこにいたのは、母マリアと父のヨセフとロバと馬小屋の動物たちだけ、誰に知られることもありませんでしたが、最初にお祝いに駆けつけたのは、近くの野原の貧しい羊飼いたちでした。彼らは戸籍もなく家もなく人々から疎まれた存在でしたが、どんな時も神様を信じていました。その夜、天使の知らせを見聞きし、その言葉だけを頼りに大喜びでお祝いと感謝を献げました。そしてその後に来たのは、遠い東の国に住む神様を信じ続け、星を研究していた博士たちでした。なぜ、馬小屋？羊飼いの？遠い東の国の博士？…クリスマスの真実の意味はここに 있습니다。この出来事を分かりやすく、神様からのメッセージとして人々に伝えるため、聖書の記述を物語のように構成し、劇として表したものが【クリスマス・ページェント(Pageant)】です。今年は非常に短い時間での限られた中ですが、年長組の子ども達自身が感じた神様への想いをあるがままに表すことを大切に、12名の子ども達と最後のクリスマスを迎えることの感謝を形にしていきたい…と願っています。そして2023年前の出来事に静かに心を馳せながら、今年のいるか組らしいページェントを通して神様の愛を感じ合いたいと心から祈っています。

「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。(ヨハネ8:12)」世界中の人の心に神様の光を祈りつつ…(石田記)